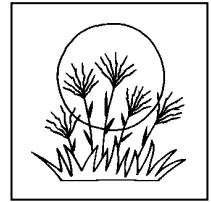


2012 年秋号

ぷらう 47号



発行：TEACCH プログラム研究会

<会長のつぶやき>

TEACCH プログラム研究会会長 内山 登紀夫

発達障害が話題になることが増えているが、最近、大きな話題になったことの一つは大阪維新の会大阪
市会議員団が準備していた家庭教育支援条例(案)である。この条例案には次のような記載があった。
第 15 条:乳幼児期の愛着形成の不足が軽度発達障害またはそれに似た症状を誘発する大きな要因であ
ると指摘され云々...

「ああ、またか」である。「乳幼児期の愛着形成の不足」が「軽度発達障害」を「誘発する大きな要因」なん
だそうだ。市会議員の団体が考えた文章なのだろうから、何人かの目が入っているだろうし、「専門家」のア
ドバイスもあったのだろう。しかし、この条例案の根拠は何なのか？その根拠には十分な妥当性があるの
か？一体、何例の子どもを対象に、どのくらいの期間かけて、どのような方法で検討したのか？などなど、
次々と疑問がわいてくる。

もっと驚いたのは第 18 条だ。「わが国の伝統的子育てによって発達障害は予防、防止できるものであり
云々」とある。クエスチョンマークが次々とわいてきた。「わが国の伝統的子育て」とは、具体的にどのような
方法か？「予防、防止できる」と断定しているが、どのように検証したのか？どのように調査したのか？「予
防、防止できる」と断定するためには多数例を最低でも5, 6年以上フォローし、対照群(非伝統的子育て群)と
比較する必要があるが、そのような検討はしたのか？などなど。

1960 年代までは自閉症には母親の育て方の問題であるとされ親は不当な避難の対象になってきた。そ
のような批判に根拠がないことを論証したのがショプラー先生だったのはご承知の通りである。

自閉症の原因は遺伝要因と環境要因が複雑に絡み合っていると考えられている。以前よりも環境要因が
注目されつつあるが、最近議論されている環境要因とは親の年齢や低出生体重などであって「子育て」の
方法ではない。まして、「伝統的な子育て」で予防できることを実証したデータはない。専門家が何らかの主
張をする場合は、それなりの根拠を示す必要があるし、政治家が政策には専門家の主張を反映させるとし
たら、その主張にきちんとした根拠があるのかどうかを検証すべきである。さすがに、この条例案には多くの
人や団体が抗議して、条例案は撤回された。しかし、今後も非科学的な「嘘」を信じる人が出てくる可能性は
ある。「嘘」によって傷つく人たちが大勢いることを忘れてはならない。



第 17 回自閉症療育者のためのトレーニングセミナー

トレセミin鳥取 を終えて

＜トレセミ in 鳥取実行委員長 森田礼子＞

トレーニングセミナーin鳥取は、ロンドンオリンピックとともに幕開けをし、ロンドンに負けないくらいの熱い熱気の中、3 日間のすべての日程を終えることができました。

全国的には目立たない地味な地域「鳥取」で開催するトレセミだったので、まずは受講者の方が鳥取まで足を運んでくださるのだろうかかと心配するところから始まりましたが、北は北海道から南は大分まで 22 名の受講者の方に参加いただき、本当にありがとうございます。

4 名の協力者の方々のご協力とスーパーバイザーの重松先生をはじめトレーナーの先生方や、準備から片づけまでトレセミを裏で支えてくださった多くのボランティアの方々のご協力のおかげで 22 名の受講者の皆さんが無事にセミナーを終了することができました。

昨日までは出会ったこともなく知らない方たちが、出会ったその日から1つのチームになり、暑い夏に熱く語り合い、試行錯誤しながら「できた！」を皆で共有できる楽しさはトレセミならではの醍醐味だと思っています。今回のトレセミがあったからこそ出会えた方々とのつながりを大切にして今後も「できた！」の輪を広げ繋げていきたいと思えます。

皆様ご協力本当にありがとうございました。

次回、第 18 回のトレセミは、平成 26 年に大分にて開催されることとなりました。香川以上にそして鳥取以上に熱いセミナーになることを期待しています。

トレセミ受講生からの感想文

＜東京支部 西多摩療育支援センター 星野洋子＞

今回、初めてトレーニングセミナーに参加させていただきました。参加前に「あまりのハードさに 3 日間で体重が 5 キロ落ちる。」といった話を聞いていたため、緊張して初日を迎えました。手厚い心配りをしてくださるトレーナーの先生やスタッフの方々、TEACCH を学びたいという同じ思いを持った受講生の皆さん、そして良き「教師」となり協力してくださった R くんとそのご家族に支えられ、ハードだけれども楽しく充実した 3 日間を過ごすことができました。

短い期間ではありましたが、R ちゃんとじっくりと向き合う中で、わかったつもりになって見落としそうになっていた事柄に気付かされました。「自閉症という障害と向き合っているのではない。個性豊かな 1 人の子どもと向き合っている。」ということです。じっくりと様子を見る、声を聞くことの重みを忘れかけていたように思います。「できるようになるためにはどうしたらいいか？」と具体的な支援策を考えることを重視しがちでしたが、まずは原点に立ち戻らなくては、と実感しました。

トレーニングセミナーは終わりましたが、これからが新たな始まりだと思っています。セミナーで学んだことを、日々の中でどのように生かしていくか模索中です。思うようにいかず試行錯誤することもあります。セミナーを受ける前とは異なり、ぶれない考えの軸が自分の中にできました。

またいつか、トレーナーの先生やスタッフの方々、受講生の皆さん、R くんとそのご家族にお会いした時に、少しでも成長した姿を見てもらえるよう、目の前にいる1人1人の子どもたちと向き合っていきたいと思います。

3日間、本当にありがとうございました！また、お会いできる日を楽しみにしています。

＜鳥取支部 放課後等デイサービス・ピピ 高橋歩美＞

7月27日～29日の3日間開かれたトレセミIN鳥取。ちょうど7月から放課後等デイサービスを始めた私にとって、ほんとうにありがたいタイミングでの地元での開催でした。

私が3日間過ごしたグループは幼児グループ。職種もいろいろ、住んでいる地域も経験も見事にバラバラ。1つのことを取り上げて話し合うのにも、見方も考え方もそれぞれの立場で見事に違い、初日にきいた「チームで支援にあたる」ということの大切さを事あるごとに感じた3日間でした。きっとこれがトレセミの魅力の一つなのでしょう。

今思い返しても、次から次へとエピソードが出てくるくらいいろいろなことがあり、喜びから撃沈まで様々な気持ちを味わった3日間でした。凝縮された時間の中で、中身の濃い勉強をさせていただいたことを改めて感じます。教わったこと・気づいたこともたくさんでまとめようにもまとまらないくらいです。うまくはまとまっていないけれど、すべて大事に引き出しにしまっている感じでしょうか。今、現場で事あるごとにこの引き出しから引っ張り出し、思い返しては確認しているように思います。

その中でも、毎日思い返し反省するように心がけているのは「伝えることは何？伝わる方法は？」ということです。『構造化し、評価し、再構造化』これを繰り返すのに忘れてはいけないことだと思っています。伝えることが何かを置き去りにした構造化で失敗したこと、伝わる方法を詰め込みすぎて撃沈したこと、トレーナーの先生からいただいたそれぞれの失敗への的確な指摘と再構造化へのヒント、グループのメンバーでヒントをもとにあれこれと話し合ったこと、再構造化によって協力児さんに「できた！」という合格の言葉をもらったこと それらを思い返して、自分がやっていることを見つめ直すようにしています。

TEACCH 初心者の私。(・・・何を隠そう「プロンプト」という言葉を聞いて頭の中をプランクトンが泳いだくらいです・・・ほかの用語も雰囲気でも乗り切りました！)

そんな私がトレーニングセミナーの3日間、頭がパンクすることなく途中で挫折することなく最後まで乗り切ることができたのは、昔からの知り合いと錯覚するくらい協力し合えたグループのメンバーたちと反応でしっかりと教えてくれる協力児さん、困ったときにさりげなく大きなヒントをくださるトレーナーの先生、協力児さんがベストな状態で臨めるように調整してくださったアシスタントの方々、すべての日程が当たり前のように流れるよう苦心してくださった実行委員の皆様のおかげだと心から感謝しています。本当にありがとうございました。

トレーニングセミナーの3日間があって、はじめてスタートラインに立てた私です。これからも初めてのTEACCHトレーニングセミナーで学んだこと・感じたことを大切に日々の支援を考え、行動していきたいです。そしてまたいつか・・・今度はもうちょっと『TEACCHのこと分かってますヨ』という顔で参加させていただきたいと思っています。

＜北海道支部 おしまコロニー星が丘寮 伊藤あさみ＞

連日35度以上の暑さが続く鳥取でのセミナーは北海道人の私にとって、夏バテしてしまうのではと思いました。また、セミナーは初めての参加で、以前参加したことのある同僚からは「感動して泣く人もいましたよ」と聞いていたので不安の反面期待も大きかったです。

初日、緊張を隠せないまま3日間を共に組むトレーナー、トレーニーメンバーと自己紹介を交えつつ、講義に参加しました。その後、私たちの取り組みに協力して頂く協力者の方とスタッフと対面。この日は自立課題について取り組むということで、時間に追われながらもトレーニーメンバーで話し合いながらなんとか自立課題を作りましたが、なかなか上手く協力者の方に伝えることが出来ずに撃沈状態。どうしたらこちらの意図が上手く伝えることが出来るのだろうかという試行錯誤が続きました。

2日目に昨日作り直した自立課題を早速協力者の方に行き、何とか達成出来た時はみんなで思わず拍手してしまいました。この日のメインはコミュニケーションについてで、物事の終了を誰に伝えたら良いのか分からず、困っていることが見られる方でしたので「終わりました」と書かれたカードを指導者(ハンズオン)に渡して伝える、ということに取り組みました。カードを使用し、戸惑うこともなくスムーズに伝えて頂いた時は本当に嬉しかったです。

3日目は基本的な生活習慣についてで、髭剃りについて行いどうすればまんべんなく髭を剃ることが出来るかについて取り組み、最初は剃る回数や範囲が上手く伝わらなかった事がありましたが、問題点を話し合いながらスケジュールなどを作り直したりしたことで、協力者の方が真剣に手順書などを意識しながら行って頂いたのが嬉しかったです。

他に3日間のトレーニーメンバー間の役割で、直接協力者の方と関わる係、連絡帳に記入する係やその日の最後にその日に行った取り組みの発表をする係等々…の係分担があり、直接協力者の方に関わる時はガチガチに緊張してしまいました。

3日間共、重松先生の簡単な事例を交えながらの講義は内容も充実していて、とても面白かったです。毎日たくさんの人と一喜一憂しながらの支援や講義、父兄のお話等、3日間という短い時間ではありましたが、とても充実していました。今後はこのたくさん学んだことを仕事に活かして行けたら良いなと思っています。

平成24年度第2回理事会報告

平成24年度第2回理事会は、平成24年6月24日(土)13:30～17:00にメルパルク京都研修室にて行われました。

参加者:内山、村松、宇山、中村、黒田、五味、中井、笠合、鈴木(小川代)、藤井、丸田、森田、西村、内田、竹長(三ヶ田代)、入井、岡本、井上、濱田(会計)

この理事会での決定事項および継続審議事項についてお知らせいたします。

議案1. 2012年コラボレーションセミナーについて

全体のまとめ、会計報告について、村松常任理事より報告され、その内容について理事会にて承認された。メジボフ先生の許可を得て録画した先生の講演DVDは、各支部にて管理し、支部での研修に活用することとなった。

議案2. 2014年コラボレーションセミナーについて

前回理事会より京都以外の場所でも開催することを視野に入れて検討してきたが、「2年ごとに京都に集う形」を望む声が多かったため基本的に京都で開催していくこと、2014年のコラボレーションセミナーは、京都シルクホールにおいて開催

することが決定した。今回は、メアリー・バーガディン先生(ラレイTEACCHセンター所長)に「セクシュアリティ」をテーマにお話しいただくようお願いすることとなった。その後講師依頼をお受けいただくことができ、開催日時が2014年2月15日(土)・2月16日(日)に決定した。

議案3. 2012年鳥取トレーニングセミナー(2012.7.27.~7.29. 米子コンベンションセンター)について 森田理事より進捗状況等について報告された。

議案4. 2014年トレーニングセミナーについて

次回2014年のトレーニングセミナーは、大分支部で引き受けていただき、当地で開催されることとなった。

議案5. 実践研究大会2013 in 石川(2013.3.2.~3.3. 金沢文教会館)について

笠合理事より実施企画について報告され、その内容について理事会にて承認された。

議案6. 支部助成金企画について

前期に申請のあった9支部(熊本、東京、神奈川、北海道、石川、山梨、大分、滋賀、佐賀)からの支部助成金企画の内容について報告され、理事会にて承認された。

支部助成金企画については、平成25年度まで実施しその結果を検証した上で理事会にて継続実施するか否かの検討をしていくこととなった。

議案7. 日本発達障害ネットワーク(JDDNET)への加盟について

内山会長よりJDDNET入会について趣旨説明がなされ、理事会で検討した結果、TEACCHプログラム研究会が公的な立場で発達障害支援について提言していくこと等を目的に、正会員として入会することが決定した。

議案8. ぶらう47号(2012年秋号)について

記事の分担と発行のスケジュールについて岡本理事より提案され、確認された。

議案9. 会費管理システムについて

前回理事会にて提案された会費コンビニ決済の導入について、現在の委託業者と他社との委託料等の比較も含めて事務局より報告された。金融機関がゆうちょのみという地方もあり、今後も検討の余地があり、継続検討していくことになった。

議案10. その他

平成25年度第1回理事会は、2013年3月1日(金)18:00より金沢市文教会館にておこなわれることとなった。

平成25年度総会のご案内

日時:平成25年3月2日(土)16:45~

場所:金沢市文教会館

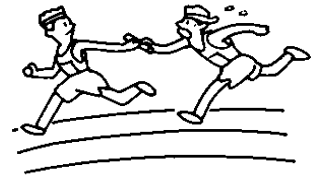
☆大事なみなさんの会費執行状況や本部の活動について報告します。
ぜひご参加ください。

TEACCH研 HPについて

会員の皆様には大変ご迷惑をおかけしておりましたが、11月中旬よりリニューアルします。HP更新・管理につきましては、障がい者福祉施設にご協力いただきながら、運用していく予定です。もうしばらくお待ちください。

今回のパスワードは、yonaga(前回と変更ありません)になります。

列島リレ〜



《山梨支部》

山梨支部は3年前に TEACCH 研 16 番目の支部として活動をはじめました。

皆さんよくご存じのように、山梨は戦国時代、武田信玄という名将がいたことで有名です。この人は情報収集力にも優れた才能を発揮し、四方を山に囲まれた甲府盆地に居ても全国の戦国大名の動きを詳細に把握していたといわれています。

さて、交通や情報網が発達している現代ですが、自閉症の人たちに対する療育や支援という分野において、残念ながら山梨は首都圏に比べるとやや遅れている感があります。支部立ち上げ当初は、教育・療育関係者ですら、TEACCH という言葉さえ知らず、自閉症の特性についても十分に理解しないまま指導を行っているケースが珍しくありませんでした。そこで、私たちは毎年テーマを決め、そのテーマに沿って一年に2回一般公開の講演会を開催し、自閉症の特性や TEACCH の考え方、構造化、評価などについて学ぶことができました。TEACCH 山梨が発足する前から活動をされていた方々の努力もあり、自閉症スペクトラムの人たちにはその特性に合った支援や教育が必要だという考え方が徐々に浸透してきています。

しかし、現場では自閉症スペクトラムの特性や TEACCH の考え方は理解できたが、それをどのようにして実際の支援に反映していったらよいのか分からないという声も多く聞かれます。そこで、昨年からは幼稚園の先生方に各地で開催されるトレーニングセミナーに参加してもらったり、月に1回ミニ勉強会を開いて各々の現場での実践報告をしてもらい互いに学び合ったりすることで、実践的な知識を身に付けようと試みています。

こうした試みはまだ始めたばかりで成果をあげるというところまでいっていませんが、自閉症スペクトラムの人たちの幸せな未来のため地道な努力を続けていきたいと思っています。TEACCH 研の勉強会の良さは、立場の違う人たちが集まっていることです。その良さを活かしながら楽しく活動をつづけていきたいと願っています。



《大分支部》

連日の熱帯夜が、ある日を境に切り替わったような気がします。全国の会員の皆様お元気でしょうか？
過ごしやすい季節になりました。

秋の夜長に大分支部の自己紹介をさせていただきます。大分支部は、2009年(平成21年)7月に全国15番目の支部として活動を開始しました。当初は50名程度だったと思いますが、地道にPRしながら、現在約100名にまで増えました。講演会のみに参加される非会員さんが約200名で大きくバックアップして下さっている状況です。

活動開始当初から、内山登紀夫会長をはじめ、スティーブ・クルーパ先生、佐々木正美先生など大変有名な講師の先生方の講演を頂き、あっという間に三年の月日が流れていきましたが、確実に学びを深め、思いやりのある暖かい「大分支部」に育っています。

毎年夏に行われる研修(ミニトレーニングセミナー)での、実践を交えながらの学習は、汗だくになりながら、みなさん充実の一日を過ごし、驚きや感動を覚えながら学ぶという実りある経験をさせていただいています。

また、大分支部では「茶話会」と称し、会員の皆様にティータイムを楽しんでいただきながら、意見交換をする場もっています。美味しい水で淹れたコーヒーや紅茶を楽しみながら、普段から疑問に思っていること、困っていることなど、ワイワイガヤガヤお話ししています。

今年は、成人期の自閉症の方への支援について、北海道 札幌市自閉症・発達障がい支援センター(愛称 おがる)の加藤 潔氏をお招きしての講演を計画、また再来年の大分での TEACCH トレーニングセミナー(本部主催)などに向けて準備しながら活動を続けています。

(大分支部事務局 竹長和恵)

